

基準は満たしておること、地形的な要素によりやみくもな拡大は安全面から憂慮される点もあり学校の意見を取り入れながら現在の敷地内での増改築と平行して検討を進めていく。

答弁(企画部長) ②合併

特例債については平成21年6月の議員全員協議会において道路整備・石下庁舎建設・石下中及び水海道西中建てかえ・絹西小整備等の主な事業のほか、市街地再生事業・学校耐震化事業等に充当する方針が出されたところである。しかしながら市内小中学校耐震診断の結果、想定以上の事業費と早急に工事着手が必要となることが明らかとなった。そのため、既に着手している事業の進捗状況を見据えながら、新たな財源確保のため国の動向を注視し、補助制度等の積極的な活用も含め議会と協議し検討していきたい。

(再質問)

①絹西小学校において平成25年度から教室の不足が発生するという事



絹西小学校

であるが、23年度においては、どのような形で具体化していくのか示せ。

(再答弁)(教育部長)

①絹西小学校には使用できる教室が14あり、現在12室を使用している。4月の新入生が76名のため3クラスとなり23年度は13クラスを使用する。平成24年度はさらに1クラス増え14となり、25年度が15クラスとなり1教室不足することとなる。このことについては平成23年度に、小学校及び関係各課と協議し対策方針を決定・実施して平成25年度には教室

の不足が生じないよう努めていく。

〈その他の質問事項〉

○歩く運動の大切さを提唱し、

実践していく活動の推進について
○水海道有料道路の社会実験について

高崎坂東線の早期実現を目指して

水野 昇議員

○高崎坂東線について
質問 早期実現についてどのような検討をしているのか示せ。

答弁(都市建設部長) 昨年3月、市長自ら県知事に要望した。さらに、県議会土木委員会の調査や県西地域振興に対する要望、県単事業要望についても市の最優先課題として要望書を提出している。現在の進捗状況は

県において石下駅中沼線の杉山地区より国生間を施工中であり平成25年の供用開始を予定。その後、篠山地区より古間木間を進める予定と聞いている。また、杉山・国生間で用地の未取得が数件あり事業遅滞の原因になっている箇所があるため市として解決に向け協力していくとともに、早期実現に向けての予算確保と事業推進を県に働きかけてい

く。なお、既に県の合併市町村幹線道路緊急整備支援事業の認定期間が経過しているため、市が市道を認定し整備することは極めて困難な状況である。
(再質問) 市で資金を用意すれば可能ではないのか。
(再答弁)(都市建設部長) 制約がある。地財法第27条の2ならびに地方財政施行令第42条により、都道府県道の新設、改築及び災害復旧に関する工事経費の全部又は一部を市町村に負担させなければならないという規定があるため、市が財源の一部を負担することはできない。また、課題となっている未解決用地の件も含め、市が協力できることを調整中であり早期整備の実現を図りたい。

(再質問) 制約があることは承知している。別の解決

策があるのではないか。
(再々答弁)(副市長) 高崎坂東線の重要性は認識している。県との交渉経過をお知らせする。用地未取得に関しては平成23年度中に県道路建設課において協議し、事業主体としての進捗も進め24年度の県の事業として採択していた、たくよう強く要望しているところである。土浦境線以南については冒頭申し上げたように重要性を認識しているところであり、工事進捗のため何が必要かを検討し県との協議に入りたい。

〈その他の質問事項〉

○石下庁舎建設に合わせて買収した10町歩近い土地の活用方法について



県道高崎坂東線